

メドウフォックスステイル、侵入していませんか？

採草地で、5月中・下旬ごろから出穂している穂の黒いイネ科雑草を見ませんでしたか？

それは、『チモシー』ではなく、『メドウフォックスステイル』という雑草です。

メドウフォックスステイルは、チモシーと比べて、出穂・開花がとても早いです。出穂したメドウフォックスステイルは、採草地で黒く見えることから『黒穂』とも呼ばれています。



出穂したメドウフォックスステイル

収量が低い

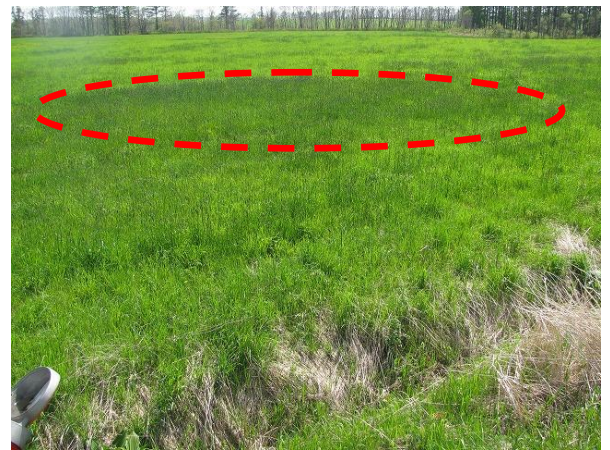
栄養価が低い

消化率が低い

嗜好性が悪い

図1 メドウフォックスステイルの特徴

1. メドウフォックスステイルの特徴  
メドウフォックスステイルは、図1のとおりで飼料としての価値が低いため、良質で安定的な自給飼料作りに悪影響を与えます。また、メドウフォックスステイルは、開花から22日後に種子が発芽能力を持ちます。そのため地域



採草地に侵入したメドウフォックスステイル

表1 メドウフォックスステイル防除法その1

メドウフォックスステイルが法面やほ場の端に存在するかどうかを確認し、メドウフォックスステイルを認めた場合は作業機械等でほ場内部に引き込まないようにし、メドウフォックスステイルがほ場内部に侵入している場合は、刈り取り・収穫残渣が他のほ場に散布されないように作業機械を掃除する

※表1、表2の防除法は、北海道の『平成26年度普及奨励ならびに普及参考事項』に掲載されています

3. メドウフォックスステイルの防除法  
日常的には、表1の内容を励行します。

の1番草収穫時期（チモシー草地）には、発芽能力を持ったメドウフォックスステイルの種子を収穫機械によって、ほ場内外に拡散させている恐れがあります。  
2. メドウフォックスステイルの発生状況  
北海道の道央・道北・道東に拡大し、標茶町、弟子屈町でも近年確認されています。

表3 メドウフォックスステイル防除法その2

A	飼料用とうもろこしを2年以上作付けし、除草剤ニコスルフロンを用いた茎葉処理を行う
B	草地更新時にグリホサート系除草剤で、前年前植生1回および翌年は種床処理2回を行いオーチャードグラス早生品種をは種して、適期収穫を行う
C	草地更新前の直近2年以上メドウフォックスステイル種子が発芽能力を持つ前に早期刈り取りを行い、前植生およびは種床にグリホサート系除草剤を処理して牧草をは種する

メドウフォックスステイルが侵入し、拡大してしまった後で、植生改善を図るには飼料生産の環境に合わせて表2のA、B、Cの順にいずれかを選択するようにします。  
メドウフォックスステイルでお困りの場合、農協・普及センターへご相談ください。

☆何かと忙しい時期です。くれぐれも農作業事故にご注意を！